

地域おこし協力隊奮闘記



昨年、田村市に移住しました、地域おこし協力隊の新井田美菜子です。

私は今、大切に住み継がれた空き家を、カフェ・木工・シェアハウスを併設した交流拠点にするため奮闘中です。

お蕎麦や和菓子の提供、手仕事体験などを通して、地域の里山文化やつながりを楽しめる場所として、この拠点を、「都々路（ツツジ）」と名付けました。

名前の由来は3つです。一つ目は都路町の名。二つ目は五十人山に咲くツツジ。ツツジが咲く山開

都路暮らしノート

ーちいさなふるさと、つくる日々



きは、地域の楽しみな行事です。暮らしに寄り添う、ふるさとの花のように。三つ目は田村市に残る「お人形様」と呼ばれる「夕筒の神さま」。筒11星1昔の人が星は「智慧をくれる存在」として仰いでいたと知り、田村の美しい星空と重なりました。

誰かにとつての「ちいさなふるさと」を目指し、始まったばかりの奮闘記。地元の学生や友人が来てくれ、畑の整備や野菜の種まき、片付けを手伝ってくれ助かりました。やること満載で、お手伝い大歓迎です。あたたく見守っていただけたらうれしいです。

たむら市民大学 たむら 挑戦状 No.16

問題

①、②、③…と数字が書いてあるカードがあります。このカードは、下の<図>のように、左下からある規則にしたがって並んでいます。

<図>	・	・	・	・	・	・
17	18	・	・	・	・	・
10	11	12	13	・	・	・
5	6	7	14	・	・	・
2	3	8	15	・	・	・
1	4	9	16	・	・	・

このとき、左から○番目で下から□番目にあるカードを(○, □)の場所にあると表すことにします。例えば、⑮のカードは、(4, 2)の場所にあると表します。このとき、次の問に答えなさい。

- (11, 8)の場所にあるカードの数字は何ですか。答えを書きましょう。
- (2)34の数字が書いてあるカードは、どの場所にあると表せますか。答えを書きましょう。

福島県算数・数学ジュニアオリンピック問題や、全国の中学入試や高校入試問題をアレンジした問題などを出題していきます。

応募期限 12月25日(木)(必着)

応募方法

- 解答用紙に名前、年齢を明記してください。
- 郵送・直接持参・オンライン申請にて受け付けます。

応募先

- 田村市教育委員会学校教育課
- ・〒963-4393 田村市船引町船引字畑添76番地2
- ・田村市HPよりオンライン申請

問合せ ☎81-1214

<10月号の正解者>

- ・耕田 俊緑さん
- ・神田 収さん
- ・佐藤 裕子さん
- ・佐藤 颯祐さん
- ・春田 直記さん
- ・服部 克也さん
- ・筋内 邦夫さん
- ・白石 竹美さん
- ・北川 栄子さん
- ・鈴木 敬子さん

※10月号のエレガント賞の該当はありませんでした。

応募と
前回の解答は
こちら▼



海を越えて 英語指導助手 ペンリレー No. 149

「クリスマス」と「ハヌカ」と共に育つ



ハナ・クレイマーさん
アメリカ合衆国・イリノイ州出身
(田村市に来て1年目)

私は多文化家庭で育ちました。父方の家族はユダヤ教徒で、母方の家族はカトリック教徒です。しかし、両親はそれぞれの信徒として育てられたにも関わらず、二人とも積極的に宗教を実践していませんでした。文化は受け継がれてきましたが、それに伴う信仰はそうではありませんでした。この二つの文化の中で育ったことについて、少しお伝えできればと思います。

父方の家族とは毎年冬に「ハヌカ」のために集まりました。ハヌカは、本来一晩しか持たないはずの油が、八晩も燃え続けたという奇跡を祝うユダヤ教の祭りです。この奇跡をしのんで、祭りは八夜続き、毎晩「メノーラー」（七本枝の燭台）にろうそくがともされます。わが家では、ハヌカの夜に親戚の家を訪れ、食事を共にしたり、ゲームをしたりしてお祝いすることになっています。

母方の家族とはクリスマス祝

います。クリスマスの本来の目的は、イエス・キリストの誕生を祝うことですが、キリスト教徒ではない人もクリスマスを祝います（アメリカ文化にも深く根付いているため）。子どもの頃は、サンタクロースのためにクッキーを置いておき、お互いにプレゼントを贈り合うことで祝いました。

大学に入って初めて、クリスマスを本当の意味で祝うようになりました。宗教的な観点からは、今でもユダヤ教のルーツに強い文化的愛着を感じていますが、今は自分がクリスマスだと思っています。子どもの頃にさまざまな宗教に触れたことにとっても感謝しています。そのおかげで、自分の信仰についてじっくり考える機会を得られました。このホリデーシーズンには、祝う祝日の真の意味について、じっくり考えてみませんか。



ちょこっと

エコライフ ～身近な省エネを実践しよう!～

vol.28 川や海を守る、生活排水を汚さない小さな工夫

みなさんは普段、洗剤やシャンプーをどのくらいの量使っていますか？泡立ちを良くしたいからと、つい多めに出してしまうことはないでしょうか？

2024年度時点で、田村市では下水道に接続されていたり合併浄化槽を使っている人の割合が約77%まで増えてきていますが、まだ約23%の人のキッチンやお風呂から出た生活排水が処理されていません。洗剤やシャンプーに含まれる合成界面活性剤やシリコンなどの成分が川や海に流れると、水中の生物の細胞膜を壊したり、魚類のエラや皮膚を傷つけてしまいます。たとえ下水処理場や合併浄化槽で処理しても完全には分解しきれなかったり、負担が掛かったりします。

こうした環境負荷を減らすために洗剤やシャンプーを使いすぎないことが重要です。そのためには、食器を洗う前に紙や布で油汚れをふき取る、アクリルたわしを使う、環境に配慮した洗剤やシャンプーを選ぶなどの工夫ができます。アクリルたわしはあまり洗剤を使わなくてもお皿の汚れを落とすことができ、誰でも簡単に作ることができます。今年の



9月には船引小学校で生活排水について学びながらアクリルたわしを作る授業を行いました。このようなちょっとした工夫が、水質の保全につながり、川や海、そして未来の生きものたちを守ることになります。小さな一歩を、ぜひ皆様のご家庭から始めてみませんか。

(獨協大学法学部法律学科3年 中尾 外国語学部交流文化学科2年 有泉)

生活排水処理に関する詳細やアクリルたわしの作り方はこちらから▶

